

ウソゲーム

青↓黄↓赤。

信号の指示でブレーキを踏みつけた。

この交差点の赤は長い。サイドブレーキを上げて鼻先で横切る車と歩行者を、ワイパーの向こうに眺める。

カラフルなカサ模様。窓を伝う雨雲を目で追っていると、助手席から声をかけられた。

「ウソゲームしようよ」

「はい？」

快活に笑う彼女に眉をひそめた。

「ここの信号、青になるまで長いでしょ？」

こいつとは、付き合い始めて今日でちょうど5カ月。

「それまでの暇つぶし」

「どんなゲーム？」

沈黙が続くよりはマシ。俺は承諾した。

「思ってることの逆を言うの」

うれしそうに簡単な説明。どういう発想力を持っているのか、時々彼女の頭の中を覗きたくなる。

「じゃ、スタート！」

何を言おうか考える間もなく、彼女の先制。

「私、雨が大好きなの。水たまりに飛び込みたくなる」

雨は嫌い。水たまりも嫌い。

「俺は晴れてる方が好きだな」

俺は雨が好き。

「そうなの？ 知らなかった」

それを彼女は知っている。

「言っていないからね」

前に話したから。

「じめっとした空気の方がいいよ」

「からっと晴れた日の方が気持ちよくない？」

ウソの反論に彼女はご満悦。

何が楽しいのか、俺にはわからないけど。

「えへ〜」

うれしそうに笑う彼女は楽しそう。

「あとね、あとね」

きよろきよろと頭を揺らした彼女が、後部シートに上半身を伸ばした。

何事かと思えば。

「これ」

その手に取ったのは1枚のCDケース。メガネが3つ、公園のベンチに並んだジャケットで俺が好きなCD。目の前に出されたそれに相槌を打つと、

「これ、大っ嫌い」

たえウソゲームと言っても、笑顔での否定ってのはつらいものだ実感した。

「センスないもんなー」

言っていて苦笑にしかない。

「あ」

小さい口を彼女が開いた。歩行者用の信号が点滅している。

「じゃーねー」

まだ続けるつもりらしい。

サイドブレーキを下げつつ、俺は青信号を心から待ち望んだ。自慢の笑顔で彼女は言う。

「あなたが一番好き」

彼女に横目で俺は笑う。

「この世で一番愛してる」

信号が青に変わった。

「ウソゲーム」

Written by nakoso

© nakoso 2008

Release Date 2008/12/07 on Bottle Novel

<http://bottlenovel.blog.shinobi.jp/>

Twitter (as inabetz) :

<http://twitter.com/inabetz>

Mail :

nakosokan@gmail.com



「ウソゲーム」 by nakoso is licensed

under a Creative Commons 表示・非営利 2.1 日本 License.

Based on a work at <http://bottlenovel.blog.shinobi.jp/>